

「ハロウィーン考 罰則伴う法令なしに抑制困難」（『毎日新聞』朝刊、令和5年10月13日、第9面）

今年のハロウィンについてアフターコロナという点からみても心配だ。ファンがコスプレをして「聖地巡礼」で東京・渋谷に押し寄せるかもしれない。渋谷のハロウィーンについて、昨年からは複数の人気アニメが取り上げている。作中、登場人物が東京メトロの線路に降り立つ描写がある。酒を飲んだ若者がまねをしないか心配だ。

ハロウィーンが日本で本格的に受け入れられるきっかけを作ったのは商業的側面からだ。1976年に洋菓子メーカー「モロゾフ」がハロウィーン向け商品の販売を始めた。83年には東京・原宿の玩具店「キデイランド」が子供向けのパレードを実施した記録がある。97年には東京ディズニーランドの大がかりなイベントや川崎市が運営に携わるようになった「カワサキハロウィン」について言及。

渋谷駅前に若者が自発的に集まるようになった要因は複合的だ。2002年のサッカーワールドカップ日韓大会で試合後、スクランブル交差点に人が集まった。以降「何かあれば皆で盛り上がる場所」という認識がメディアを通じて広く共有された。また近年は埼玉や神奈川などの近県から鉄道で行き来しやすくなった。若い世代はアニメなどのオタク文化をプラスに捉え、コスプレを抵抗なく受け入れられる。ハロウィーンに仮装した若者が渋谷に集まるのはこうした事情が重なった結果であることを指摘した。

渋谷区は条例を定めたものの、罰則がなく、抑止力としては弱い。行政が今後どうするか、は試行錯誤の状態であることを指摘した。